

SL（サブジェクトライブラリアン）制度

目的・趣旨 |

SL制度は、ライブラリーセンター（Library Center：図書館）が教育組織と協力し、主として学生に対する効果的な学習支援を行う制度です。具体的には、大学・高等専門学校の各学科や各教育課程の教員がサブジェクトライブラリアン（Subject Librarian：分野専門家）として、多様な学習ニーズに対応できる情報収集や情報サービス、更に直接的な学習指導を行います。

特にSLは研究者（分野の専門家）であり、高度な研究情報の体系や所在、更にその入手方法を熟知し、その情報の運用や評価にも精通していることから、多様な利用者（学生、卒業生、他分野の教員）への適切な情報を提供することができます。

このSL制度を運用することにより、利用者の学習ニーズから新たな学習支援や情報サービスの機能や仕組みを生み出し、新しい学習支援サービス、利用者サービス、更にイノベーティブな学習の場を形成することを目指しています。



学習支援デスク

実施内容 |

○教育・研究に即した、資料の選定

SLは蔵書構成に対する責任を持ち、カリキュラム、研究に即した図書・雑誌等の資料を選定しています。特に、担当分野に関して所蔵資料の構成と評価、購入計画、資料選定を行うことはもちろん、学生や教員などのユーザーに向けた資料、更にはLCとして必要な資料の選定や審査を行う役割を担っています。

○学習支援デスク業務とSL講座

利用者に対する相談窓口となる「学習支援デスク」を設置し、あらかじめ決められたオフィスアワーをSLが担当しています。ここでは、学習相談や学習指導はもちろん、資料利用相談をはじめ、学習・研究活動などの様々な相談を受け付けています。また、SLの専門性を生かした学習講座を企画・実施しています。

○LCと教育組織との連携

LCを運営する立場で、大学・高等専門学校の各学科や各教育課程へ、LCからの各種情報の連絡や教育現場からの利用ニーズの把握を行っています。例えば、LC運営を行っていく上で開かれるSL会議において決められた内容や案件を大学・高等専門学校の各学科や各教育課程に展開するとともに、各教育組織で開かれる会議からLCの運営やサービスについて企画・提案をする役目を担っています。

実施成果 |

S L制度は、L Cが開館した昭和 57 年から運用を始めており、これまで多くの教員がS LとなりL C業務に携わりながら教育組織とのパイプ役を担ってきました。これにより、L Cを身近に感じる教員が多く存在していることにつながっています。

例えば、L Cスタッフによる、授業や研究室でのL C利用に関する講習や、課外での講習会開催が個別の教員から要望・実施されるほか、授業科目と連携した資料準備と効果的な利用方法の相談が気軽に行われています。このことは、資料の充実や新たなサービスの展開にもつながっています。また、課外学習講座開催についてはS Lのみならず、元S Lによる課外学習講座が企画されL Cで開催されています。

近年、S Lが教育組織とL C間のパイプ役となり推進した取り組みに、プロジェクトデザインⅢプロジェクトレポート（いわゆる学部卒業論文）のデジタルデータによる収集と閲覧サービスがあります。また、S Lにより「専門基礎学力増進プログラム」を教育組織が実施する組織的な活動として展開しています。これはS Lが中心となり、各学科の特徴に応じた専門基礎に関する活動方針・内容を設定し実施しているものです。このようにS L制度は、教育組織とL Cをつなぐ上で非常に重要な役割を担っています。



授業科目と連携した資料準備
(リザーブブック)

今後の展開・課題 |

図書資料や電子資料の充実、学習スペースを提供するだけでなく、魅力的な学習の場に向けた自学自習ツールの充実が必要です。

大学・高等専門学校の各学科や教育課程の教員で構成されるS L制度の特色を生かし、各分野やカリキュラムに即した自学自習コンテンツやeラーニングツールの整備など、利用者とのL Cをつなぐ新たなサービス提供を課題としています。



授業・研究室に向けた利用講習会



授業科目と連携した資料準備
(約 1 万冊の英語多読図書)

参考文献・URL |

金沢工業大学ライブラリーセンター
(サブジェクトライブラリアンとは)
<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kitlc/about/sl.html>

連絡先 |

金沢工業大学ライブラリーセンター
学習支援部S L事務室
〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1
TEL: 076-294-6439